

四谷大塚	6年						
	算数						
学習内容	14回 入試直前対策(2) 15回 入試直前対策(3)						
家庭学習 ポイント	「入試直前演習 (2) (3)」を学習し、入試に向かいます。志望校も固まっている頃ですから、何にどれくらい時間を使うべきなのかを判断するのが一番難しいところです。志望校の傾向・難易度とお子様の得意分野や苦手分野、苦手の中でも伸ばすことができる分野の正確な判断が必要です。受験プランに変更がない場合は「ひたすらに」、変更がある場合は「焦らず早急に」、新たな志望校対策を講じましょう。受験直前まで授業は組まれていますが、受講カットを検討すべき場合もあります。合格に向けて必要な家庭学習・過去問演習・弱点補強については、優先度は高めにして時間を確保しましょう。過去問演習においては、学校ごとに具体的な「取り組み方」も確認しましょう。問題の優先順位や時間配分、書き方や解き方の注意点などをノートにまとめておき、入試本番でも確認できるようにしておくとよいでしょう。						
課題の把握と解決策	チェック1 現実的な受験校が出揃い、受験プランが確定しましたか？ 解決策 問題との「相性」もないとは言えません。過去問の出来なども参考しつつ最終決定局面です チェック2 「演習→解説」からの気づきが得点力アップにつながっていますか？ 解決策 通常授業の問題で気づいた課題から「次の得点」につなげる学びを続けていきましょう チェック3 過去問演習で間違った問題の「周辺知識」まで学習していますか？ 解決策 塾テキストや使い慣れた参考書で周辺知識を確認し、付箋を貼っておきましょう チェック4 併願校も含め、過去問演習は順調に進んでいますか？ 解決策 時間がないようなら塾の授業を休んで家庭学習、という方法も検討しましょう チェック5 受験当日の「イメージトレーニング」はできていますか？ 解決策 ぜひ一度、親子で取り組んでみてください	チェック	□	チェック	□	チェック	□
四谷大塚	6年						
	国語						
学習内容	14回 入試直前対策(2) 15回 入試直前対策(3)						
家庭学習 ポイント	1月の予習シリーズは「入試直前対策」が2回分実施されます。四谷大塚および準拠塾では、読解演習量や本文の長さの不足感が、追い込みの甘さを生むケースがあります。また、合不合で高い合格率が出ている場合も過去問の分析を深く行い、本当に合格できる状態になるまでしっかり読解演習を重ねておく必要があります。合不合の結果についてはあくまでも参考程度に留め、実際に受験する学校の国語の問題を解くために、具体的に気を付けるべきことを言葉にしてまとめていきましょう。受験する学校それぞれの問題傾向、合格するために国語でとるべき点数、時間配分、文種ごとの読み方（線の引き方）、設問ごとの解き方などをまとめた自分だけのノートを作りあげていきましょう。「四科のまとめ」についても、「志望校で出題されそうな単元なのでCレベルまで覚える」など、分野ごとに具体的な方針を立てて学習していきましょう。						
課題の把握と解決策	チェック1 具体的な受験プランが固まってきたか？ 解決策 受験の可能性が出てきた学校があれば、1年分程度は過去問演習をしておきましょう チェック2 志望校に的を絞った学習ができていますか？ 解決策 過去問演習とそのおしを最優先させましょう チェック3 過去問の直しから多くの学びを得ることができますか？ 解決策 「次に正解させるべき問題」を意識して学習するようにしましょう チェック4 過去問演習は順調に進んでいますか？ 解決策 進行状況によっては、塾の平常授業などの欠席も視野に入れましょう チェック5 学校ごとの問題傾向、取り組みの注意などについて整理ができますか？ 解決策 漠然ではなく、言葉にして整理しておくことが大切です	チェック	□	チェック	□	チェック	□

四谷大塚	6年							
	理科							
学習内容	14回 入試直前対策(2) 15回 入試直前対策(3)							
家庭学習 ポイント	「入試直前対策」2回の学習で各単元の複合問題に取り組みます。入試レベルの複合問題を数多く演習する中で、各単元の知識を横断的に結び付けていきましょう。これまで暗記型学習をしてきたお子さんは、この機会に知識どうしを関連付ける訓練をして本番の入試に備えましょう。1月の後半の授業では、知識の総まとめ→入試直前総合演習と仕上げていきます。1月も12月同様、日曜の学校別対策コースの教材は志望校合格へ直結する最良の教材と考え、振り返りを十分に行いましょう。志望校別コースを受講されていない場合は、過去問から志望校がこれまで出題してきた知識問題・計算問題・実験考察問題のレベルを確認の上、残り2ヶ月で、お子さんに必要な演習問題（単元・傾向・量）を決定し、実完問・市販の教材・志望校以外の過去問を使って○○の単元から演習を進めるなど、具体的なプランを立てて学習を進めてください。							
課題の把握と解決 策	チェック1	知識の厚みはじゅうぶんといえますか？	チェック					
	解決策	問題演習などで知識の不足を感じる場合は「四科のまとめ」「魔法ワザ」などで補強しましょう	<input type="checkbox"/>					
	チェック2	知識を横断的に用いる総合問題でつまずいていませんか？	チェック					
	解決策	12回「分野を超えた問題(2)」は最後の練習の機会になりますね	<input type="checkbox"/>					
	チェック3	「問題演習→周辺知識を別テキストで学習」というサイクルが守られていますか？	チェック					
	解決策	このサイクルの繰り返しを入試まで続けましょう	<input type="checkbox"/>					
	チェック4	1問解き終わるごとに「ここで得た知識が志望校の問題にどう役立つか」考えていますか？	チェック					
	解決策	「○○中だったらどんな出題をするだろうか」と考えてみるようにしましょう	<input type="checkbox"/>					
	チェック5	過去問演習は予定通り進んでいますか？	チェック					
	解決策	受験する可能性が出てきた学校があれば、最低1年分は演習、研究しておきましょう	<input type="checkbox"/>					
四谷大塚	6年							
	社会							
学習内容	14回 入試直前対策(2)～歴史～ 15回 入試直前対策(3)～政治～							
家庭学習 ポイント	1月の四谷大塚は、「入試直前対策(2)(3)」で、より入試レベルの実戦的な授業となります。もちろん通常授業は、原則としてお子さんの志望校に向けてカスタマイズされたものとはなっていないので、過去問演習が最重要となります。正解させられなかった問題について、「その問題を解くためには、どれだけの背景知識が必要なのか」という視点で、しっかり周辺知識まで学習しておくことが大切です。塾のテキスト、テスト、過去問演習など、今後取り組むすべての問題はお子さんの弱点をあぶりだす機会に過ぎません。解いて終わり、直して終わり、ではなく、その後に「何を覚えたのか」を重視して学習を進める必要があります。覚えれば覚えた分だけ着実に得点率が上がっていくのが社会です。記述問題対策、地図問題対策など、特殊な出題形式への対策も含めて、できる準備はすべてやり切って本番に臨みましょう。							
課題の把握と解決 策	チェック1	歴史や地理の知識を、漢字で答えられる状態でつけていますか？	チェック					
	解決策	人名や地名など、基本的に漢字で答えられる状態を目指しましょう	<input type="checkbox"/>					
	チェック2	問題を「解きっぱなし」にせず、演習後に「周辺知識を覚える」時間をとっていますか？	チェック					
	解決策	周辺学習に使ったテキストには付箋をはり、入試までいつでも見返せるようにしましょう	<input type="checkbox"/>					
	チェック3	時事的な問題について、志望校がどの程度詳細に出題するかを把握していますか？	チェック					
	解決策	お子さんの志望校の傾向に合わせて対策していきましょう	<input type="checkbox"/>					
	チェック4	志望校の出題傾向にあわせた学習ができていますか？	チェック					
	解決策	平常授業、志望校別特訓などもすべて「志望校合格」から逆算して活用のしかたを考えましょう	<input type="checkbox"/>					
	チェック5	過去問演習は予定通り進んでいますか？	チェック					
	解決策	特に受験計画の変更があった場合は、過去問計画も柔軟に変更しましょう	<input type="checkbox"/>					